

硬

球

修繕します

高校や大学野球の練習用

宇治・就労ネット「みっくすはあつ」



野球部の練習用の硬球の修繕に取り組む「みっくすはあつ」のスタッフたち(右から2人目は小畑さん) 一宇治市小倉町・みっくすはあつ

元横浜 大門さん指導

障害者の就労を支援する宇治市のNPO法人(特定非営利活動法人)・就労ネット「みっくすはあつ」は、9月から、高校の野球

部などが毎日の練習で使う硬球を安価で修繕する新たな取り組みを始めた。スタッフらは「ものを大事にする心を育て、広げたい」と意気を感じている。

取り組みは、その名も「エコボール」。

きっかけは今夏、同法人とかねて交流がある宇治市在住のプロ野球・横浜ベイスターズ元選手の大門和彦さんと、法人の職員が社会貢献を考える集まりで交わした会話だった。

同法人が手織りなど縫製に取り組んでいると知った大門さんが、「高校の野球部で破れたボールをよく縫った」のを思い出し、いまはほぼ使い捨てではないとの話に。ここから、同法人に所属する障害のあるスタッフの仕事

にできないか、と発想が膨らんだ。

まずは、大門さんの母校、東宇治高の野球部に練習球の提供を依頼し、同高側も快諾。

9月に入って早々に、打撃練習用の約20球を同高野球部から初めて預かった。大門さんの直接指導も受けて4人前後のスタッフで切れた糸を縫ったり、球の表面を磨き、野球部にあつためて納めた。

また、この話を伝えた京都市の高校や大学の野球部数校からも修繕の依頼があり、ボールが一定たまった段階で取りに行くことになっている。

同法人サービスマン責任者の小畑治さん(40)は「この取り組みを、スタッフの仕事として軌道に乗せるだけでなく、地域や社会とつながりを深める契機にしたい」と話す。

修繕は1球50円から。同法人では組みに協賛する企業も募っている。問い合わせは、みっくすはあつ ☎

(23) 7920。

(広瀬哲裕)